

平成30年7月6日

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

〒060-0061

札幌市中央区南1条西11丁目

TS札幌ビル

公認会計士・税理士 酒井純事務所内

白楊ヶ丘札幌

世界に発信できる高校へ



札幌支部 支部長

黒田 信彦

(第七三期・昭和四十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から同窓会の活動に対しましては、一方ならぬご支援を賜り感謝申し上げます。本年度も皆様方のお陰で総会・懇親会を開催できる運びになりましたことに対して厚くお礼申し上げます。

今回は同窓生の皆様に余り浸透してはいないと思われませんが、函館中部高校の画期的な取り組みについてご紹介します。函館中部高校ではこれまで英語教育の充実を目指して平成十五年度から六年間にわたり文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SEIHI）研究指定校を受け、英語教育の充実に取り組んだ

ことが契機となり、その後も文科省や道教委から様々な研究指定を受け、素晴らしい成果を上げながら今日に至っています。このように研究指定を受けて、学校や生徒の実態を踏まえた実践を行うことは、教員にとっては日々の授業はじめ学級経営や部活動の指導さらには校務分掌の仕事にプラスして行うことになり、最初は負担感があるものの、生徒が飛躍していく姿を見ることによって苦労が喜びに変わっていくものです。しかし、文科省や道教委から研究指定されることは函館中部高校に限ったことではなく公立高校であればどの学校にもチャンスがあり、こうした研究指定を受けていることだけでは他校との差別化や学校

の特色化には繋がりません。昨今は日本の大学教育に魅力を感じない生徒が増加しており、優秀な生徒は海外の大学に進学するようになってきました。実力で合格できるのはごく限られた一部の生徒だけです。函館中部高校では先のSEIHI研究指定校の取り組みと成果が、国際大学連合（IFU）に注目され、本校生徒の国際感覚を涵養し、高い語学力を身につけ、世界に通用する人材育成の一助とすることを目的とし、イギリスやアメリカの大学と連携することになり、平成二十年五月に調印式を行い、現在もIFUとの提携は継続しています。IFUはイギリス西部のウェールズにあるバンガー大学に本部を置き、神戸市に日本の事務所があります。IFUではスコットランドの英国国立セント・アンドリュース大学（ウイリアム王子の母校）、ウェールズにある英国国立バンガー大

学（チャールズ皇太子が総長で海洋生物学では世界的に有名）、アイルランド国立ダブリン大学（エリザベス二世により創設された難関大学）、そしてアメリカイリノイ州の私立グリーンビル大学（医学進学コースもある）の四校と提携し、四大学の専門課程に準級するための準備期間で日本の教養学部に対応するファウンデーションコースに学校長推薦で何名でも進学できるといふ画期的な特権を函館中部高校は持っています。これは単なる留学ではなく海外大学への進学であり、難しい試験を受験せずに一定の力さえあれば函館中部高校の生徒なら誰でもチャンスがあります。これまでに函館中部高校からは数名が進学し、大学卒業後は高い語学力と広い視野を身につけたことから日本はもとより世界各地の企業などから引く手数多の人気振りです。

このファウンデーションコースはロンドン大学などで

長く教授を勤められた北中寿先生（神戸市在住）が現セント・アンドリュース大学副学長ら三名と立ち上げ、グローバルの時代にあって日本の優秀な高校生を海外の大学で学んでもらって世界で活躍できる人材を育成する目的からスタートしたと聞いています。また、ファウンデーションコースから専門の学部に移行する際にも、IFUが適切に指導して頂き、大学での成績や生活状況などを定期的に出身高校に知らせて頂いていて生活や心のケアもしてくれています。さらに、提携校でファウンデーションコースの一部を導入することも可能であり、高校在学中に一部のカリキュラムをこなすことで、ファウンデーションコース入学後の単位として認定されることも大きな特色です。IFUとの連携では、海外大学進学以外にも

毎年夏に二週間の語学研修があり、午前中はバンガール大学で本格的かつアクティブな授業により多彩なプログラムを展開し、午後からは世界遺産や美しい自然などの歴史と文化を学ぶ研修を行い、バンガール市長はじめ多くの方々が日本の高校生を歓迎してくれ、これらきっかけで海外大学に進学する生徒も出ています。さらにディスタンスラーニングと言ったユーチューブやDVDを使ったイギリスの大学の教授陣の授業を校内で受け、添削指導をしていただくことも継続しています。現在は、函館中部高校の英語科の白鳥先生に当初から中心となって熱心に指導をしていただき、私も感謝しています。

この取り組みは、北海道では函館中部高校と藤女子高校の二校だけであり今後道内で増えることはありません。私が現在勤務している藤女子高校には数年前にバンガール市長やグリーンビル大学の学長夫妻も来ていただき、極めて希なそして貴重な講演会をお聞きし、生徒や保護者のモチベーションが著しく高まり、五年間で五名の生徒が海外大学に進学しています。学校経営には僅かなチャンスをものにし、本質的な教育を見極めて継続的に全校上げて取り組むことで学校の特色化に繋げていくことが大切です。

現在も函館中部高校ではIFUとの提携は継続していますので、こうした他校にはない取り組みをもっと宣伝し、多くの生徒や保護者に興味関心を高めていただくことを願っています。これからの教育には課題解決型の能力、主体的に取り組む態度、多様な人々との協働が必要とされ、何を学ぶか、どのように学ぶかそして何ができるようにな

るかが大切であり、大学教育や高校教育の改善と大学入試の内容も大きく変わります。一つの取り組みを進展させることは他の多くの力の育成に繋がることになり、連携したことで英語を中心にしながら多くの学習をしています。海外の人々と英語で何を語るのか、そのためには日本の歴史や文化、宗教など幅広い知識と

教育を身につけておくことが欠かせません。

一つの取り組みを進展させることは他の多くの力の育成に繋がることになり、教育に携わる人たちはこのことを忘れずに、潜在的な能力を有している函館中部高校の生徒を存分に伸ばして頂くことを切に願っています。

同窓会に参加を



白楊ヶ丘同窓会会長

石井直樹

(第六三期・昭和三十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部 定期総会・懇親会のご盛会を心からお喜び申し上げます。今年の冬の函館の天候は、まさに異常気象でした。ここ数十年考えられもしなかった早さで、十一月下旬には根雪となりました。以降、経験したことがないほどの量で、朝夕と雪かきに追われ、道路の車線や歩道は狭くなり、通勤や通学に多大なしわ寄せが出ることとなり、市民生活は混乱を余儀なくされたところであります。そういった中の三月一

日、函館中部高校の卒業式は、前日からの天気予報で何十年に一度の暴風雪が吹き荒れるであろうとのこと

で、当時の中島校長にとっては教員生活最後の卒業式ということ、予定通り挙行できるか否か悩まれたとのことでありました。幸い、卒業式当日は、風雪がそれほどでもなく、無事に全日制二百三十八名、定時制十八名の卒業生を送り出すことができました。校長先生はもとより教職員の皆様の心痛はいかばかりかとお察しいたします。卒業生にとつても忘れられない一日となったのではないでしょう。そして、今後は進学、就職とそれぞれ進む道は異なりますが、この冬の天候同様、予測しがたいことに遭遇することも十分考えられます。そういう時には、創立百二十年余の歴史を誇る函館中部高校での授業や部活動を通じて培った、い

わゆる「白楊魂」のもと、ひとつひとつ困難な場面を乗り越えて欲しいと思います。

さて、郷土函館は、昭和五十九年に三十二万人を超える人口を有しておりましたが、年々人口の減少が激しく、現在は二十六万人を切るような状況になっております。国内外の動きも複雑な状況を迎えておりますが、ご承知の通り、一昨年、道民待望の北海道新幹線が開業し、一層の経済振興が期待されていきました。開業初年度は各方面にその効果が表れたところでありま

すが、しかし、二年目の昨年は、初年度よりも約二十パーセントと北海道新幹線の利用者が減少してきており、北陸新幹線のように明るい方向に進むということは難しくなってきました。

全国的に人口減少が続く中ですが、函館は昭和四十年代には造船業や水産業な

どが街に活況を呈していました。今はその主流が、観光関連産業に移っておりま

す。そのためにも陸海空の交通の要衝といわれる函館としては、定住人口の減少を交流人口の増加で補っていかねばなりません。そして、同窓生の皆様には全国各地はもとより世界の各地で活躍されている方々も数多くおります。機会のあるごとに函館に思いを馳せ、様々なご意見やアドバイスを母校や函館に頂きたいものと期待しております。そのためにも、函館は当然ですが、札幌など全国四カ所の支部で開催される総会・懇親会に出席していただき、情報交換などを通じ、交流を図ることに

により、母校や郷土の現況を把握していただければと思います。

私は第六三期の卒業ですが、毎年観桜会と称し、上野公園で同期会を開催して

います。遠くはアメリカのヒューストン、さらには北海道や福岡などから三十名ほどが集まりますが、予定した時間では話が尽きません。話題は、医療、介護、年金など多岐にわたりますが、何と言っても母校や郷土の現況に及びます。皆様におかれましても、お忙しいところ集まりをもつことの企画には、一歩踏み出す勇気がいりますが、この同期会の集まりこそがさらに

輪を一つ広げた同窓会につながります。是非頑張って誘い合って出席してはいかがでしょうか。きっと楽しい、そして懐かしいひと時を過ごすことができるものと思います。

東京支部だより



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

白川 正広
(第七六期 昭和四十九年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には、お変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

会報にこうして、毎回、東京支部からのメッセージを掲載していただき、重ねて感謝申し上げます。

また、日頃より、当東京支部へのご支援に厚くお礼申し上げます。札幌支部の

当東京支部の会報の作成は編集担当者に一任しておりますので論評は避けま

が、最近の各号では各支部からのご挨拶などは掲載しておりません。年に一度、こうして交流があることは喜ばしいことですが、日頃、札幌と東京の個人対個人の交流はそれなりにありながら、組織間の交流はほとんどないのが実情です。相互

員にとってタイムリーか。ホームページはどうか。そもそも、最近の若手は、「インターネットのホームページ」という少し古臭くなつた媒体を見るものなのか、などの心配ごとの延長です。

でしようし、少し枠を広げて同窓会にも出てみようということになるはず」という回答を持っておりました。

思います。また、誤解をおそれずに申せば、同窓会も組織である以上、新陳代謝すべきであり、どんな若手の皆さんが、自分たちがやりたいやり方で、同期メンバーをどんどん誘いたい会に衣替えすべきだと思います。

ない傾向にあるようです。「だって、LINEでつながっているの」ということです。この流れが、これまでは同窓会といえば「名簿」であり「会報」、「総会」でしたが、そういうものとは違う「何か」、日常的にすべての同窓生とつながるプラットフォームを作れるのではないか。何年か先には「スマホ世代」が新しいことをやってくれることを期待しております。そう

の同窓会組織の発展という観点から、是非、そうすべきということになれば、札幌はじめ各支部から近況の文章をお寄せいただくということになるかもしれない。その節はよろしくお願

も、毎回、参加して下さる方々は大変ありがたいと思うのですが、過去に参加したことがありながら、途絶えているような人に、参加して下さいと声をかけて返ってくるお答えとしてよくあるのは、「若いころ、先輩に誘われて、一度、同窓会に出席してみたけど、お年寄りばかりで話し相手もいなくて」というような感想です。このような方

に総会の企画運営をお任せしています。押しつけ半分です。「今度はあなたたちの番だから」と。総会出席者の二十〜三十%を、この「幹事期」が占めてくれることを期待しています。幹事期の皆さんは、毎回、関東在住者だけではなく、函館や札幌からも同期メンバーが駆けつけてくれます。

「幹事期」が占めてくれることを期待しています。幹事期の皆さんは、毎回、関東在住者だけではなく、函館や札幌からも同期メンバーが駆けつけてくれます。きないのではなく、会があることを知らないという事情のほうが大きな障害になってるように思います。

を期待しております。そうになると、函館本部も札幌支部も東京支部も混然一体となり、永続的に組織が発展・継続するのではないかと夢想しております。視点を実実に戻し、東京支部の近況をご報告しますと、昨年ご紹介しました、

このようなことをわざわざここで書く意図は、少し従来のやり方にとらわれない視点で、同窓会の継続・発展というものを掘り下げてみるべきではないかと思うからです。

対しては、「あなたもいずれ年をとりますし、五十年後になれば、仕事が一

何事もきつかけが大事です。そのような「後押し」によって同窓会とのパイがつながり、輪が広がってくればありがたいと思っております。何よりも幹事期の皆さん自身が楽しんでくだされば最高だと

少し期待したいのは、最近の若者は、職業上必要な職種を除いて、年賀状の交換もしないし住所録も作ら

ない、③五十歳以下の期が同期会を開催すれば支部から補助金を出すという3点の目標、このうち、①、②

各行事の都度、この行事は同窓生の皆さんのニーズに合っているのか、あるいは、会報などの企画は会

がつか、まずは同期のメンバーが集まる機会が増える

しんでくだされば最高だと

換もしないし住所録も作ら

の目標、このうち、①、②

は今年も順調です。③は案を東京支部各期の評議員の皆さんにご紹介しました。若手の期が名乗り出てくれることを期待しています。

少し地味な懸案事項です

が、東京支部では、毎年会報を発行して三千名弱の関東近辺の会員に郵送しております。同時に総会の出欠を返信してもらうハガキ代も加えて、実は、会報の作成・印刷費以上に郵送費がかかります。同期の皆さんが集まる会で手渡ししてもらうなり、出欠の確認はメール等による「実効を伴いながら格段に経費が削減できる方法」がいろいろあるのではないかと、などの議論もしております。

思うところを語っていただき、「昨年度までやってきたので今年もやらなければ」ということにとらわれない運営を見出していただくと考えております。

東京ならではの景色や風物、街並みなどが盛り込まれていない文章になってしまいました。同窓会組織として、東京支部は人数が多いためだけに将来想定される問題点も他の支部よりも顕著に現れてくる面もありましょうし、また、札幌支部をはじめ各支部が直面している課題を実行に移せる側面も持っているものと考えております。そのような観点から、活動の一端を紹介し、思うところを開陳させていただきます。



北海道函館中部高等学校長

田尻勝敏

学校の近況について

ご挨拶

黒田信彦支部長様をはじめ、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には、日頃より本校への温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。また、この度の白楊ヶ丘同窓会札幌支部第三十八回定期総会・懇談会のご盛会を心からお慶び申し上げます。

私は、今年度の人事異動により北海道根室高等学校から赴任して参りました。道内有数の歴史と伝統を誇る北海道函館中部高等学校で勤務できますことは大変身の引き締まる思いです。微力ではありますが、更な

る教育活動の充実に尽力して参りますので、よろしくお願ひします。

紙面をお借りし、学校の現状（進路・部活動）、教育改革と函中の教育、函中生への期待等についてお話しさせて頂きます。

一 進路状況

平成二十九年度卒業生の進路状況については、国立大学に百十名（昨年度九十一名）、防衛大学校に一名、私立大学・短大に延べ百五十一名（昨年度百六十二名）、高等看護に延べ十五名、専修学校に延べ二名、就職二名という状況です。過年度生は国公立

大学に十六名、防衛大学校に一名、私立大学・短大に延べ二十一名、専修学校に一名となっております。

国公立大学の現役合格者は、昨年より二十名ほど増えました。十二名の合格者を出した北海道大学を始め難関国公立大学に多数合格者を出しています。医学部医学科は、旭川医大一名、札幌医大一名（過年度生も一名）と昨年に比べ現役生がよく健闘しました。また、私立大学においても、早稲田、慶應、明治、法政、立教など首都圏の大学にも例年同様に合格しています。生徒の努力と健闘を高く評価したいと思います。

現在、今年度の入試結果について分析しているところですが、新学習指導要領に対応した教育課程の見直しを含め、しっかり検討し、改善を図って参ります。

二 部活動

函館中部高校は文武両道の伝統を大切にしている学校ですが、今年四月の時点で生徒の部活動の加入率は八十七・九パーセントと高い加入率となっています。

生徒は日々の勉強に励む中、部活動にも全力で頑張っています。

五月末に行われました高体連函館支部の大会では、剣道部、硬式テニス部、水泳、バドミントン部がそれぞれ男子団体優勝に輝き、中でも剣道部は支部大会三連覇を果たしました。また、陸上部では、札内くんが二百、四百Hで大会新記録を出す目覚ましい活躍をみせてくれました。この他、高体連、高文連の支部予選を突破し、全道大会へ進出する部活動は、女子バスケ、トボール部、卓球部、弓道部、柔道部、水泳部、体操部及び囲碁将棋部、L

MC、ESS、放送局などが全道大会へ駒を進めました。各部の全道大会での上位進出を願うと共に、これから大会を控えている野球部、そして吹奏楽局や音楽部など文化系の部活動の活躍を期待しています。

三 教育改革と 函中の教育

高大接続などの教育改革

が進み、三月には新学習指導要領が告示されました。

「何ができるか」「どのようになれるか」ということを重点に教育活動を行う必要があるとされています。特に「どのよう

に学ぶか」というところは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についても規定されています。

「も」とより直接に事物を教えんとするもでき難きことなれども、その事にあたり物に接して狼狽せず、よく事物の理を究めてこれに処するの能力を発育することとは、ずいぶんでき得べきことにて、すなはち学校は人に物を教うる所にあら

ず、ただその天資の発達を妨げずしてよくこれを発育するのための具なり。教育の文字はなほだ穏当ならず、よろしくこれを発育と称すべきなり。かくの如く学校の本旨はいわゆる教育にあ

らずして、能力の発育にありとのことをもってこれが標準となし、かえりみて世間に行わるる教育の有様を察するとき、よくこの標準に適して教育の本旨に違わざるもの幾何あるや。我が輩の所見にては我が国教育の仕組はまったくこの旨に違えりといわざるをえ

ず。」「教育」と訳されている「education」は、もともと「educere」が語源で可能性を引き出すという意味であるのに、教え込むという意味の漢字が当てはめられてしまいました。福澤先生

「知識・技能」の習得」「理解していること・できるところをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」「どのように社会・

世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

の涵養）」の3つの柱で示

され、そして、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」ということを重点に教育活動を行う必要があるとされています。特に「どのよう

に学ぶか」というところは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についても規定されています。

この教育改革の背景には、グローバル化の進展やAIの飛躍的発達により国内外におけるこれまでの職業や労働の形態が大きく変化し、AIによって現在ある多くの職業が無くなると

考えられていること。さらに、これからの時代は、数年後が予測できない困難な社会になると考えられていることがあると考えます。

このような変化の激しい社会の中で学校教育として私たちが心掛けるべきではない事は何か。それは、福澤諭吉先生が教育について

「も」とより直接に事物を教えんとするもでき難きことなれども、その事にあたり物に接して狼狽せず、よく事物の理を究めてこれに処するの能力を発育することとは、ずいぶんでき得べきことにて、すなはち学校は人に物を教うる所にあら

ず。」「教育」と訳されている「education」は、もともと「educere」が語源で可能性を引き出すという意味であるのに、教え込むという意味の漢字が当てはめられてしまいました。福澤先生

ん。それらを活用して、自ら課題を解決していく力で。また、それ以上に主体的に学ぼうとする意欲を育てることが大切とされています。函中は、これから求められるものを既に行ってきたとおり、それが伝統として受け継がれていると思います。

特にそれが現れているのが英語教育であります。単なる受験指導ではなく、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、海外留学にも通用する英語力を目指しています。「中部の英語」と呼ばれているように全国的にも高く評価されており、多くの生徒が語学研修に参加するとともに海外の大学へ進学する生徒もいます。グローバル化の進展する社会で活躍できる人材の育成は本校の重要な使命であり、それを果たすために、伝統的に受け継がれている「発育」の考えに基

づく教育活動の一層の充実・発展を目指して参ります

四 函中生への期待

今から約二十年前、函中で勤務させて頂いた経験があり、白楊（ポプラ）のようになやかな身体とたくましい精神をもち、高い理想に向かって努力する「白楊魂」の精神を大切に、「自主・自立」を重んじる

函中生の姿に大変感心させられました。今回、再び勤務させて頂き生徒の姿から「白楊魂」「自主・自立」の精神が脈々と受け継がれていること感じました。

函中の伝統を受け継ぎ、高い志を持ち、夢を掴み取るため殻を破り一歩前に進んで欲しいと思い、上杉鷹山の「なせば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉を生徒に紹介しました。ここ函中で学び、社会の

リーダーとして活躍して欲しいと思います。

終わりに、同窓生の皆様にはこれからも本校へのご支援を賜りますようお願いいたします。

回想

修学旅行の思い出

吉田 昭二

(第七〇期 昭和四十三年卒)

申し上げますとともに、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の益々のご発展と皆様のご健康を祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

昭和四十三年卒、第七〇期の私たちにとっては、本年は節目の卒業五十年になります。当時の学校の大きな行事としては学園祭があり、前夜祭にはキャンプファイヤーを囲んでのフォークダンス、メインは市内を練り歩く仮装行列でした。他にも体育大会等がありました。特に思い出があるのが、二年生のときの修学旅行です。五日間位の日程で、関西（大阪・京都）・関東（熱海・箱根・東京）

方面でした。現代の修学旅行は飛行機での移動が主力のようですが、当時は、今は無き青函連絡船に修学旅行専用列車でした。（数年前にグアムに旅行した際、同じホテルに茨城県からの修学旅行生がいたことには時代の流れを感じました。）当時の一学年の生徒数は五百名以上でした。関西方面ではいくつかの見学コースがあり、それぞれ分かれての見学でした。私は、京都方面の見学コースでした。



当時の仮装行列の様子

往復は列車の網棚・床での車中泊。私の記憶では、修学旅行中に三つの台風接近があり、一日遅れでの帰函でした。帰函中、台風の影響で列車が止まり、宮城県岩沼駅で六時間も足止めをくらい、食べ物も無くなり、お土産に買ったお菓子等を食べて凌いだものです。運動不足解消のため、早朝、体育の奥平先生の指導のもと、岩沼駅のホームでラジオ体操した思い出があります。

また、関西方面から移動する際、初めて新幹線に乗

ます。慌てておばさんに知らせて外に出ると、すぐ向かいの家から炎が見えたので、急いで避難しました。幸い人的な被害や延焼はなかったのですが、私の住む所も燃えてしまうのではないかと不安でしたし、新しい生活が始まる時にこのようなことに遭遇するなんてとショックを受けたことを覚えていています。

入学してみると、同級生はみな明るく個性豊かな人たちばかりでした。また、函館中部高校は自由闊達な校風でしたので、そのうち私も新しい環境にすっかり慣れ、楽しい高校生活を送ることができました。授業の内容についてはあまり覚えていませんが、先生方は、面白かったり、厳しかったり、それぞれ個性的な方々ばかりだったと記憶しています。

のですが、一度だけ、確か二十年以上前だと思いますが、一年生の時に英語（リーダー）を習った成沢先生と偶然、再会したことがあります。残念ながらその時はゆつくり話をする余裕がありませんでしたが、時間があつたら、教材で使ったサマセット・モームの「ヒューマン・ボンデッジ（人間の絆）」のことについてあれこれと思ひ出話ができたかもしれません。

函館中部高校の女子生徒にとつて印象深いのはやはり体育の授業ではないでしょうか。紺色のプリーツのスコート（ブルマー？）に着替えて、毎時限、旧体（旧体育館）の雑巾がけをするのが決まりです。そのおかげで床はピカピカ、体操や創作ダンスで寝転んでも一切汚れることはありませんでした。また、水泳では一年生は二十五メートル横泳ぎが必須で、真剣に練習したことは忘れられない思い出です。

京都、奈良への修学旅行は高校の大きな行事です。以前、同窓会東京支部の会報誌の随想欄に掲載されたことがありますが、行ききの青森駅での「修学旅行乗り遅れ事件」の関係者は同じクラスではありませんでしたが、同期です。それを読んでいるうちに、私の記憶も蘇り、修学旅行から戻るとすぐに他校の友人から、「取り残された人がいたのね」と言われて、情報の速さに驚いたことを思い出しました。

三 卒業後のこと

卒業後は、札幌の大学に進学、その後、北海道職員になり、平成二十九年三月末に退職しました。道庁では、経済をはじめ、地域振興、環境、教育、文化、スポーツなどに関する業務に携わり、また、帯広や稚内でも勤務しました。その間、苦勞したこともいろいろとありましたが、様々な分野でたくさんの方々と出会うことができて楽しかったし、私自身が本当に多くのことを学ぶことができたと思っています。現在は、次の人生のステージに向けて、頭と家の中を整理しつつ、これまでできなかったことに励んでいるといったところです。

四 最後に

同窓会とは単に母校の思い出を分かち合い懐かしむだけの場ではなく、世代を超えて様々な方々と交流することによって、情報交換したり、学んだり、新たな人となりができたりする貴重な機会となるのではないのでしょうか。微力ではありますが、今後、私もこうした意義を同期の人たちや後輩たちに伝えて、少しでも同窓会の活動に貢献していきたいと思っています。



回想

函館中部高校の思い出

秋山重徳

(第六九期 昭和四十二年卒)

私が大野中学校から函館中部高校に入学することになったのは、中学三年の時の担任の先生が熱心に勧めてくれたからです。私は十人兄弟姉妹の五番目で、とても進学させてもらえる経済状況ではないと考え、就職を希望していました。後で知ったのですが、その担任の先生も函館中部高校の出身で大先輩でした。同窓生の一員として、今あるのも先生のおかげと感謝しています。

一 高校受験勉強について

一九六三年（昭和三十八年）十一月二十二日のことです。いつものようにラジ

オを聴きながら机に向かっていて時でした。ジョン・F・ケネディ大統領暗殺のニュースが流されたのでした。突然の事であり、その時の衝撃は忘れられないものでした。就任当初の大統領演説に何か世界が変わるような期待を感じていたら、何か希望の火を掻き消された気がしたことを思い出します。

二 入学式について

入学式には、父が付き添ってきました。これまで、小学校・中学校の学校行事等には無関心であった父が付き添うとは思いませんでした。入学する私

よりも父の方が嬉しそうに、上機嫌で話していたことを思い出します。今は亡き父で、親孝行らしきものは出来ませんでした。函館中部高校に入学したことが親孝行になったと思います。

三 人文地理の校外授業について

人文地理の担当は輪島先生でした。各グループ（数名）に分かれ、校外にて調査研究し、その結果を発表せよとの課題を与えられました。肝心の調査のテーマは何であったか思い出せませんが、我がグループは、当時駅前にあったタクシー会社「函館交通」を訪問取



高山植物イワカガミ

材し、それを参考にレポートを作成し提出しました。D I君が作成した表現力豊かな文章は、まるで文学作品のようでした。のちにD I君は学業部で活躍したようです。

四 部活動①について

入学して間もない頃、級友のH K君に誘われて、弓道部に体験入部しました。二週間くらい活動し、基本だけを教わり退部しました。電車通学であり、帰宅時間が遅くなり、運動部は無理と判断したからです。

五 部活動②について

生物部には、H I君に誘われて入部して、植物班に所属することにしました。生物部での印象深い活動は、春の新入生の歓迎を兼ねた親睦会です。赤川水源地の「ぶた汁会」は恒例行事で、先輩も参加して楽しく行われていました。年一

度、解剖実験（蛙・犬等）をしました。夏休みには遠征をしました。小学校等を拠点にキャンプをしながら、植物や昆虫等の調査・採集を実施します。知内の湯の里小学校に遠征をした時、道南の福島峠にて高山植物のイワカガミに遭遇したことは、定年退職後の趣味に山歩きをするきっかけとなりました。体育祭の日及び休日を利用しては、赤川周辺の山野を主な行動範囲とし、時には横津岳から袴腰岳を縦走し、赤川方面へ朧と捕虫網持参で歩き回ったものです。平日の活動は採集してきた植物の標本作りや図鑑と照合し名前等の鑑定作業です。その頃作った標本は今も残っているかです。ちなみに顧問は森下光越先生・三齋修先生でした。

六 部活動③について

古典同好会を發展された

のは同期の工藤治雄君でした。お互い電車通学だったので、同好会の立ち上げについていろいろ話し合ったものです。登録名は単純に「古典同好会」になりましたが工藤君と私は「古雅の会」と別称を使っています。活動は、源氏物語の読書が主で、正月には岡野先生宅及び杉江先生宅へ招待していただきました。杉江先生宅は湯の川でしたので、帰りにみんなで湯の川スケート場で初滑りを転倒せずに楽しめた記憶があります。

七 その他

白楊祭の準備のため、禁止されている学校での泊まり込み作業やフォークダンスの練習時の溝江先生の厳しい御指導（振り回されながら）も懐かしい限りです。また、三年のクラスで放課後突然、函館山集合で夕陽を見に行くことになった

り、卒業式終了時には、松風町の某割烹において卒業祝い兼ねて、送別会を行ったりしました。不思議なほどの団結心があるクラスでした。（今思えば、その経費はどこから出たか不思議なことだらけです。）担任の三沢誠一郎先生とともに数名の先生も参加しておられましたので、おそらく先生方有志で祝ってくれたものと推察されます。最後の最後までお世話になりました。感謝いたします。

また、生物部の諸先輩の皆様には大変お世話になりました。特に第六期の加藤光先輩には受験時には、宿泊から食事までお世話になりました。また試験前日には激励会等まで催していただき、誠にありがとうございました。

最後に、現在生物部の活動は低調で、休部中とのことですが、是非伝統のある生物部の活動を復活し継続

を願っています。（恒例のぶた汁会が復活することを祈っております。）

ご寄附御礼

今年度は次の方からご寄附を頂きました。ここにお名前を掲載し、御礼に代えさせて頂きます。（敬称略、卒業期順）なお、このほか

氏名不掲載希望の方が9名おります。（平成30年6月15日現在）

（45期）東出 信（48期）能戸 清（51期）大野義雄、塚本昭一（故）（52期）稲岡七朗、東海林修一、村島義男（53期）田中 愛、廣川勇司（55期）坂野玲子（56期）堀 槿子（57期）阿部 弘（59期）小賀敦司（80期）榊田 薫（92期）牧野光記（104期）中村大輔（107期）小林 令

（62期）田中智恵子、林三樹（63期）坪田憲三、塚原和子（64期）宇野浩二（68期）今井浩三、田辺文彦、森川勝吉（69期）安藤牧子（72期）藤田美津夫（73期）尾埜善久、黒田信彦（77期）吉田隆範（78期）佐賀敦司（80期）榊田 薫（92期）牧野光記（104期）中村大輔（107期）小林 令

平成29年度収支計算書

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日

収入の部		
科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,264,492	
年会費	248,000	@ 2,000円 124名 現金払 @ 2,000円 1名
終身会費	80,000	@10,000円 1名 @15,000円 2名 @20,000 2名
総会懇親会費	212,000	@5,000円 37名 @3,000円 9名
広告掲載料		
雑収入	25,000	総会祝儀・寄付金等
預金利息	10	郵便貯金
当期収入合計	565,010	
収入合計	1,829,502	

支出の部		
科目	金額	摘要
総会懇親会費	196,200	会場関係費
講演会費		講師航空券代
印刷費	205,826	白楊ヶ丘札幌、総会通知、年会費払込票等印刷費
会員名簿作成費		
通信費	160,398	総会通知、支部報、発送費等
旅費交通費	73,000	本部・他支部総会参加旅費、その他交通費
会議費	49,000	役員・幹事会費
事務費	25,366	文具・消耗品費
振替手数料	15,610	郵便振替手数料
雑費	28,896	本部・他支部祝儀・その他雑支出
当期支出合計	754,296	
次期繰越金	1,075,206	内訳財産目録のとおり
支出合計	1,829,502	

財産目録		
種類	金額	摘要
現金	17,286	
振替口座	545,550	
郵便貯金	512,370	
合計	1,075,206	

